

チーム甚小2020「学校教育目標」と「2020年度重点目標」に向けて

【学校教育目標】「善く生きる子」の育成を目標とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を尊び活力に満ちた心身共に健やかな児童の育成を図る。

【2020年度重点目標】E S Dを柱とし、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる児童の育成

【豊かな心】

<感謝の気持ちを持ち、周りと協調できる子>
行動目標「気持ちよいあいさつを進んでしよう」

【健やかな体】

<心身共に健康で、最後までやりぬく子>
行動目標「自分やみんなのためによい汗をかこう」

【資質・能力の育成】

<気づき・考え・実行できる子>
行動目標「自分の考えを持ち、学び合おう」

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- ①説得力をもって、自分の思いを伝えられる。
- ②さまざまな角度、立場で考えられる。
- ③自信をもって、前向きに取り組める。

何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導改善

- ①相手意識をもって聞く・話す力が育っている。
- ②多角的・多面的な思考力が身に付いている。
- ③主体的にかかわる態度・行動力が育っている。

【子どもの実態】

- ・あいさつはできるようになってきたが、まだ十分ではない。
- ・そうじ等でよく働く子が多い。
- ・言われたことは素直に行うが、自ら気づき、考え、実行できない。

子どもの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 個に応じたきめ細かな指導
- 職員の連携を密にして、情報を共有し、同じ歩調で多くの目で指導

【めざす子どもの姿】

- 自己肯定感が高く、自他共栄の精神をもてる子
- 自ら考え、自分の行動に責任をもてる子
- 健康でまじめに努力できる子

何を学ぶのか

○教育課程の編成

- ① E S Dを柱とした教科横断的なカリキュラムの作成(E S Dカレンダーの更新)
- ② 言語の能力の育成(朝読書の充実)
- ③ 1年生～6年生までの6年間を見通した授業づくり
- ④ 家庭と連携した学習習慣の確立

どのように学ぶのか

○教育課程の実施

- ① 児童主体の問題解決型の授業(教師が教えすぎない)
- ② ゲストティーチャー・出前授業の活用や体験活動を生かす
- ③ 総合学習を中心に計画的・継続的・組織的な取組
- ④ 学びのプランを作成し、「単元で付けたい力」と指導計画を明確化し、主体的な学習につなげる

実施するためには何が必要か

指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 校内研修の充実 ○外部講師を招いての少経験者授業研究 ○いじめや不登校のない人権を重視した学年・学級経営
- 学校運営協議会を通じて、PTAや支援団体(おやじの会・ブックママ・スクールガード・学校支援ボランティア)との連携
- 働き方改革で、職員が自分や子どもと向き合う時間を確保 ○幼稚園・保育園や中学校との連携

安心・安全を守る

- ・安全・安心な学習・生活環境の整備、平時からの危機管理
- ・教育相談やアンケートによる不安の早期発見・早期対応
- ・自分の命は自分で守る児童の育成(安全・防災教育)

開かれた学校づくり

- ・ホームページ、学校・学年だよりによる積極的な情報発信
- ・報告・連絡・相談を大切にした風通しのよい職場環境づくり
- ・地域人材や施設の活用、地域との協力